

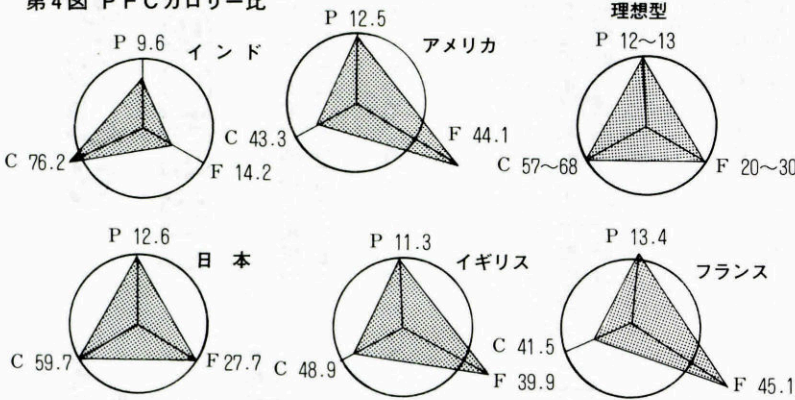
**PFCカロリー比**  
 栄養バランスの基本は、たんぱく質(P)と脂肪(F)と炭水化物(C)のバランスです。この3成分の熱量比をPFCカロリー比といいます。  
 理想的な比率は、P12~13%、F20~30%、C57~68%といわれ、大まかに1:2:5となります。

私たちは、戦後、欧米諸国の食生活に近づくことを理想としてきました。しかし近年欧米諸国では動物性脂肪や砂糖の摂取過剰と穀類の摂取不足等栄養の偏りが大きな問題となつています。第④図を見られても理解できることと思います。日本の食生活が一番理想型に近い型になっていきます。今後は成人病予防、健康づくりなど、米を中心とした「日本型食生活」の良さを見直したいものです。

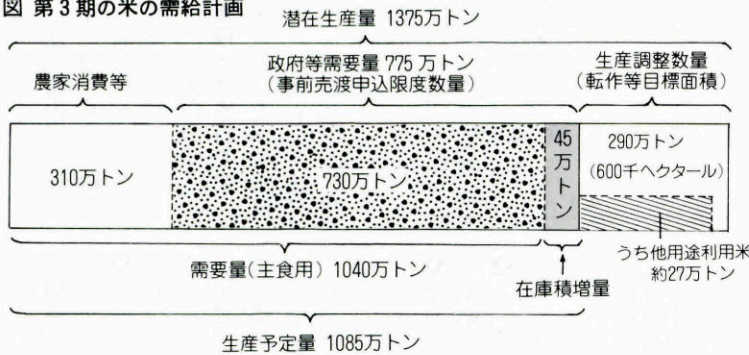
◎見直される「日本型食生活」



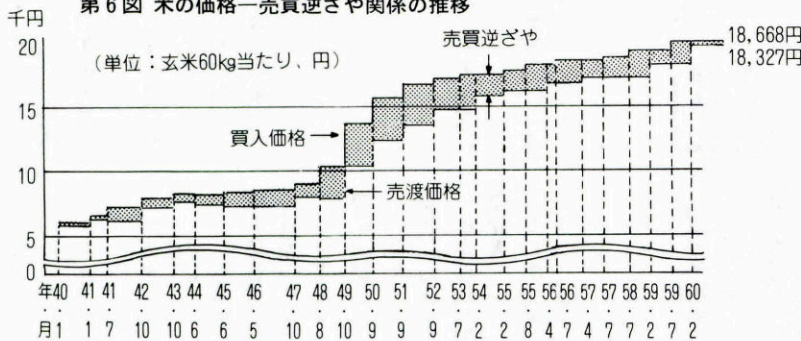
第4図 PFCカロリー比



第5図 第3期の米の需給計画



第6図 米の価格—売買逆ざや関係の推移



(消費米)は、政府の買入価格(生産者米価)より低くなつていきます。この価格の差がいわゆる「売買逆ざや」といわれるもので、この差については国民の税金で賄っています。現在の逆ざやの比率は一九〇程度となつてい

◎転作の面積、限度数量はどのようにして決められるか

水田利用再編第三期対策(昭和五十七年~六十一年)においては、四年続きの不作で米の備蓄がなくなり各年毎に四十五万トンを足していくようになっていきます。また過剰米で処理していた加工原料を他用途利用米(二十七万トン)

で対応します。このような背景の中から調整を行い昭和六十年度は転作等の目標面積は五七四千ヘクタール、予約申込限度数量は七八五万トンとなつていきます。第⑤図は、その概要を示したものです。皆さん方が実施されています転作の配分、米の政府買上げ、限度数量は、このような形で、国、県、町、農区、農家と指示されてきます。

◎気になる「米」の価格と「逆ざや」とは

生産者米価は、国民に必要な米の再生産が図られるよう、また消費者米価については家計の安定化を狙いとして、米価審議会にかけ、その答申を受けて政府が決定することになっていきます。第⑥図のように現在、米の政府の売渡価格